

平成28年11月21日

横浜市市民局
局長 西山雄二様

横浜市武道会連絡会議加盟団体
横浜市弓道協会
会長 竹内敏文



横浜市立武道館弓道場〔近的場・遠的場〕建設に関する要望書

日頃より、スポーツ振興にご尽力いただき有難うございます。さて、関内地区に武道館を含む横浜市文化体育館再建計画が実行段階となり、武道団体の一員としても大きな喜びであり感謝するものであります。しかしその際、弓道場と相撲道場は他の場所に建築を計画するとのことで、今回は併設不可能との結論でした。

横浜市弓道協会としては、この度、横浜市武道館建設推進協議会と連携をとりながら早期に弓道場と相撲道場建設を要望いたします。

前回提出致しました要望書の中で、上瀬谷通信施設跡地利用について言及しましたが、跡地は、関連する瀬谷区・旭区の将来生活に影響する事案であり、横浜市として慎重に検討が進んでいるとは思いますが、是非とも弓道場〔近的場・遠的場〕を計画の一部に加えて頂けないかと存じます。有効利用出来る施設として地域のコミュニティの場として会議室等は大会以外は地域の談話室・各種教室等に利用、又災害時には避難場所としての機能（トイレ・冷暖房等）を備えている建物として利用可能であります。

平成28年度の第13回都市間交流大会は常盤公園弓道場では会議室も選手控室も無く利用時間も制限もあることから今回は県立武道館を借用して急場をしのいで行いました。

日常の練習場所としても弓道愛好者人口〔神奈川県弓道連盟登録人口は全国2位〕に比べ道場数が少なく、元町弓道場、戸塚弓道場、栄本郷弓道場、泉弓道場と規模も小さく利用者（特に高校生）は不便を生じております。

横浜市弓道協会主催での大会が300名規模で行うことが出来る、横浜市武道館弓道場を希望するところです。高齢者人口比率が団塊の世代の定年を迎え大幅に増え続ける現在、高齢化対策の中で健康寿命の延伸はスポーツの取り組みで奨励されています。

老若男女（高校生）自分自身の体力に合わせた弓具で行えること、日本の文化スポーツとして楽しめることから、「やってみたいスポーツ」の一つに調査結果で、毎回上位となっている弓道です。施設が無ければことが進みません、予算編成など隘路も有りますが、横浜市武道館弓道場〔近的場・遠的場〕の建設が1日も早く実現するよう要望いたします。

以上